

教会学校

第5回日本伝道会議「こども」プロジェクト①

子どもの「危機」を検証

「危機の時代の宣教協力—もっと広く、もっと深く—」をテーマに9月21~24日、札幌で開催された第5回日本伝道会議(原田憲夫実行委員長、中島秀一会長)では、プログラムの中心に平和問題、福祉、信徒活動、ディアスポラなど15のプロジェクトを据え、それぞれの分野で課題や今後の取り組みについて話し合った。「こども」プロジェクトには、子ども伝道に関心をもつ多くの牧師、信徒、教会学校(CS)スタッフが参加。2日間にわたり、小グループに分かれてそれぞれが感じる課題を出し合った。本欄では、2回に分けて「こども」プロジェクトの様子を紹介する。

教会学校の実情を探る

子どもたちに福音を伝えるために

「こども」プロジェクトは、この時代に日本や世界で、子どもが抱えている危機について検証。参加者で意識を共有することともに、このような時代だからこそ、教会がどのように子どもたちと関わり、仕えていけるか積極

多様・複雑化 対応苦慮する教会

的に話し合う、というもので。プロジェクトリーダーの錦織寛氏(ホーリス・東京中央教会牧師)は、「子どもの危機に対する意識(子どもに対するホーリスティックな宣教の必要の認識)をもつこと。危機を単に悲観的、脅迫的にとらえるのではなく、チャレンジとして受け止め、チャンスとして

て前進し、今まで培われてきたものを大切にしながらも、主の期待に応えて新しく変えられていく第一歩とさせていたいただきたい」と狙いを語る。2日間のセッションを通して、参加者が問題意識と動機付けを共有すること、そして子どもを取り巻く様々な職業やアプロ

ワークを構築することを目指した。

プロジェクト前、参加者には事前にアンケートを実施。1日目には

課題の共有、意識改革の必要性

「問題解決のために大切なことは何か」の問いには、「課題を共有し折り合うこと」、「子どもを取り巻く問題(教育、精神面のプロフェッションナ

集会・セミナーの全国的開催など、学びや働き人育成の必要を訴える声も多い。

教会・CSに必要なこととしては、「子どもへの意識を高める(重要性を再確認する)」、「牧師や教

「自尊心や自己肯定感がない」、「罪悪感がない」など、子ども自身に関する問題を懸念する声も多かった。

②に関しては、離婚や核家族化、共働きなど家族関係の希薄化を指摘。「信仰の継承がなされていない」、「しつけがなされていない」、「親としての責任を果たすことの欠如」などが挙げられた。

それに対し、③の回答では「子どもを理解するための学びがない」、「どうしたら子どもの本音を聞けるのか」、「牧師は教会の運営があるので、子どもに十分な時間とエネルギーを注ぐことは難しい」、「個人では対応しているが組織的にはできていない」など、教会でも十分に対応し切れていない状況が浮かび上がった。



プロジェクトリーダーの錦織氏



小グループに分かれてディスカッション

その結果が報告された。現代の子どもが抱えている課題について聞いたところ、回答は①社会、学校、子ども個人、②家庭、③子どもへの対応(教会として)の、大きく3つの分野に分けられた。

①では、「情報が氾濫している」、「活字離れ」、「聖書に親しみにくい」など携帯電話やテレビ・インターネットなどの普及で様々な情報を子どもが容易に得てしまう危険性を指摘する声が多く聞かれた。また、「子どもの格

「定期的な学びと祈りの

「本音に目を傾け祈る」など子どもに寄り添うこと。親子が共に聖書を学

次回10月25日号では、グループディスカッションで話し合われた内容を紹介します。

【藤野多恵】

Christian funeral services advertisement for Tanaka Shoten.

Real estate advertisement for Fuji Land.

Advertisement for Tsurukawa Women's Short-Term University.

Advertisement for Tsurukawa High School.

Advertisement for Sawai Christian Ceremonies.

Advertisement for Tanaka Shoten Christian funeral services.

Advertisement for JTJ Christian Seminary.

Large advertisement for Christian news and matrimonial services.